

# 籾水分情報 Vol.10

令和6年9月13日  
農業技術研究センター

高温の影響により、例年より出穂が早まりました。気象庁は今後も高温になると予報しており、登熟は早く進み、収穫期の前進が予想されます。高温時には玄米の成熟よりも帯緑色籾の減少が遅れることがあるため、刈り遅れないよう籾水分を確認し、25%になったら収穫を開始しましょう。また、高温時には籾水分のばらつきが大きくなるため、平均値だけではなく、その分布も刈取適期判定に重要です。そこで当センター玉井試験場内水稻ほ場の籾水分状況を調査し、原則として、毎週火、金曜日に公表しています。

ほ場の観察や籾水分の確認と併せて本情報を活用いただき、適期の刈取りを行い高品質米を生産しましょう。

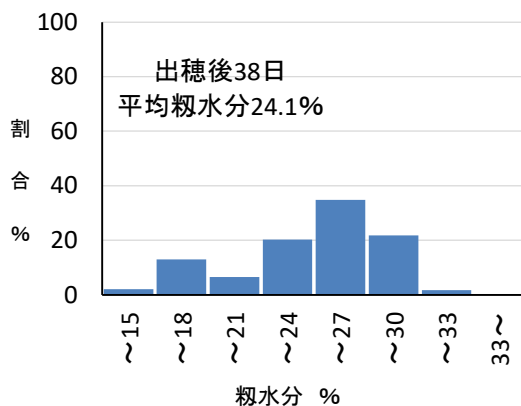
【\*次回の提供は9月18日（水）の予定です。】

## 9月12日現在の状況

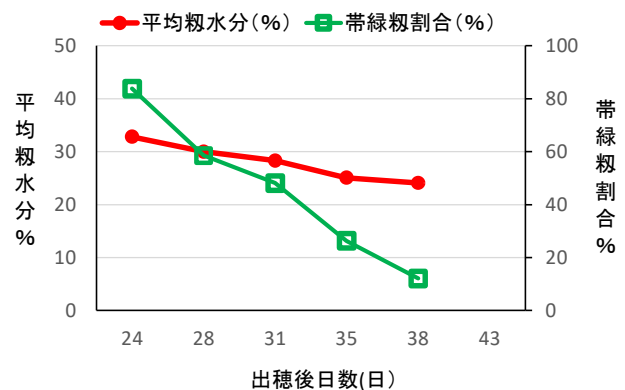
### ◎ 5月29日植「彩のきずな」

(出穂期：8月5日、出穂後38日、出穂～測定前日までの積算気温 1067℃)

- 籾水分の平均値は刈取開始目安を下回る24.1%です。単粒の籾水分は前回同様バラツキが大きいものの、24%以下が4割以上、そのうち1割5分程度が18%以下迄低下しています。帯緑籾割合は12.1%と収穫適期の目安の晩限に迫っています。今後も高温が予報されていますので、刈り遅れないよう、速やかに収穫作業を行いましょう。また、秋雨前線の影響を受ける時期であるため、予報を確認し、降雨前に収穫作業を行いましょう。降雨後は、籾や茎葉が乾いてから収穫作業を実施し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを行いましょう。



○籾水分の分布



○平均籾水分、帯緑籾割合の推移

\* (参考) 早植栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安  
登熟積算気温 900~1200℃、帯緑籾割合 50~10%

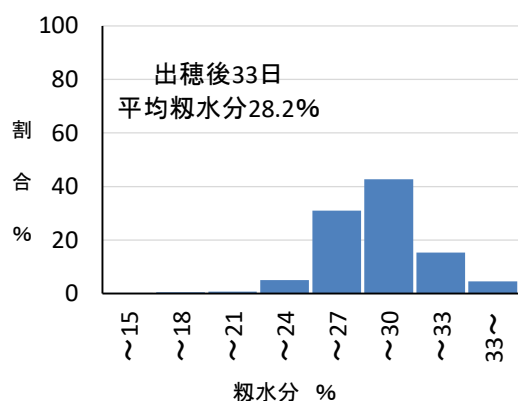


○5月29日植「彩のきずな」、出穂後38日（9月12日）の玄米（篩目1.8mm）

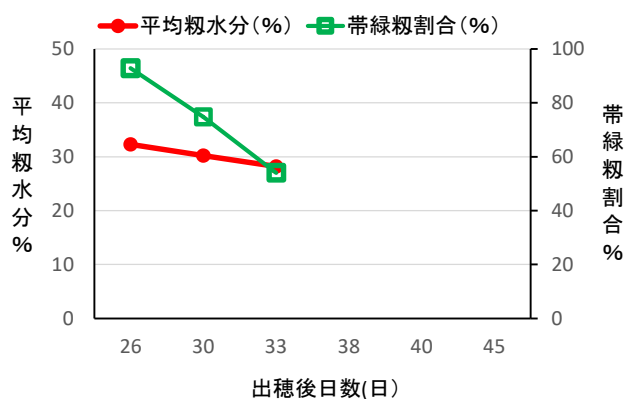
◎5月21日植「彩のかがやき」

（出穂期：8月10日、出穂後33日、出穂～測定前日までの積算気温920℃）

- ・ 粳水分の平均値は28.2%です。単粒の粳水分では27%以下のものが4割程度に増加しています。帯緑粳割合は54.1%で、低下が緩慢となっていますが、玄米の成熟は進んでおり、収穫開始目前です。ほ場を観察し、倒伏や登熟ムラの大きい箇所は刈り分けを計画する等、収穫の準備を行いましょ。また、秋雨前線の影響を受ける時期となるため、連続した降雨により収穫適期を逸しないよう予報をこまめに確認しましょ。



○粳水分の分布



○平均粳水分、帯緑粳割合の推移

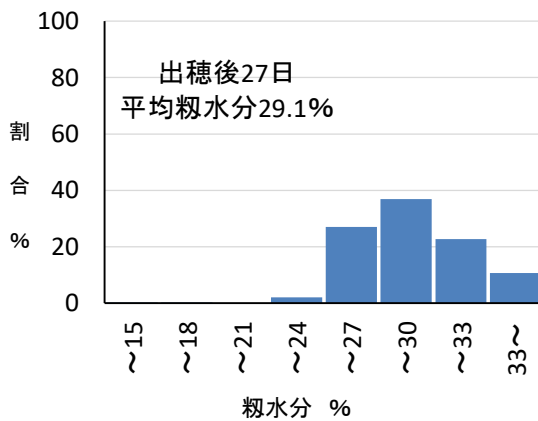
\*（参考）早植栽培「彩のかがやき」の収穫適期の目安

登熟積算気温910～1110℃、帯緑粳割合 穂の下部、3割程度に青みが残っている頃

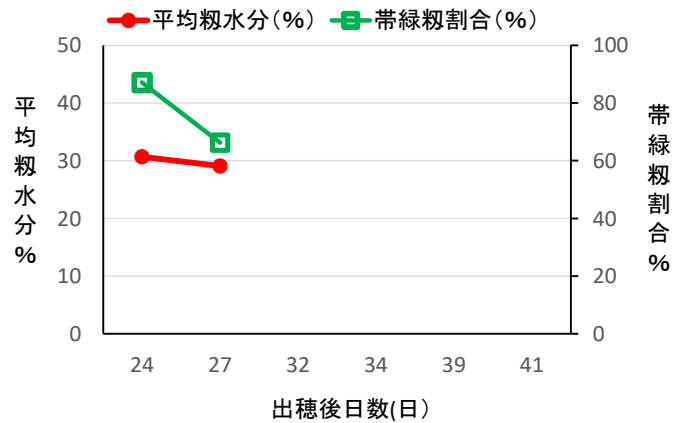
◎ 6月25日植「彩のきずな」

(出穂期：8月16日、出穂後27日、出穂～測定前日までの積算気温 737℃)

- ・ 籾水分の平均値は29.1%です。単粒の籾水分では分布のピークは前回同様27～30%ですが、27%以下のものが3割程度に増加しており、今後籾水分は急速に低下すると思われま  
す。秋雨前線の影響を受ける時期となるため、連続した降雨により収穫適期を逸しないよ  
う予報をこまめに確認し、収穫の準備を行いましょ



○ 籾水分の分布



○ 平均籾水分、帯緑籾割合の推移

\* (参考) 普通期栽培「彩のきずな」の収穫適期の目安

登熟積算気温 900～1100℃、帯緑籾割合 30～10%

\* 単粒水分の測定方法：午前10時30分頃、中庸な1株からサンプリングした約10本分の穂を脱粒し、2.1mm目の篩により不稔籾を除いた籾を単粒水分計により測定(2反復)